



—研究者たちの独創的で多様な研究活動を支援—
2024年度稲盛研究助成に50名を採択

公益財団法人稲盛財団（理事長 金澤しのぶ）は、3月8日（金）の理事会において、国内の自然科学、人文・社会科学の研究者を対象に、独創的で優れた研究活動に対して助成する稲盛研究助成の2024年度対象者を決定しましたので、お知らせいたします。



贈呈式の様子（2023年）

採択人数：自然科学系 40名／競争率 8.4倍

人文・社会科学系 10名／競争率 7.3倍 （計 50名）

助成金額：1件につき 100万円（計 5,000万円）を贈呈

助成実績：1985年度～2024年度＝延べ 1,879名、18億 6,940万円

「2024年度稲盛研究助成金贈呈式」は4月13日（土）に京都市内にて開催いたします。また、贈呈式後は3S^(*)交流会として、約30名の会員によるポスター発表が行われる予定です。詳細は改めてお知らせいたします。

(*3S：次頁5. 参照)

■ 本件のお問い合わせ

公益財団法人稲盛財団 広報部 平川 直希・中島 剛・スミス めぐみ
〒600-8411 京都市下京区烏丸通四条下ル水銀屋町 620 番地 COCON 烏丸 7F
TEL: 075-746-2523 E-mail: press@inamori-f.or.jp
URL: <https://www.inamori-f.or.jp>

※本資料は、[京都]京都大学記者クラブ、京都経済記者クラブ等に配布しています。



稲盛研究助成について

稲盛財団創業者 稲盛和夫の理念に基づき、未来の人類社会に貢献する人材育成を目的として、1985年より毎年、国内の自然科学、人文・社会科学の研究者を対象に、独創的で優れた研究活動を支援しています。

1. 2024年度選考結果

2024年度は、国内の選抜された国立大学、公立大学、私立大学、大学共同利用機関法人、その他の研究機関に所属する408名（自然科学335件、人文・社会科学73件）の研究者から応募がありました。

いずれの研究テーマも新しい視点やユニークな取り組みによりそれぞれの研究分野に発展をもたらし、将来的に人類や社会への大きな貢献が期待できるものです。2024年度を含めた稲盛研究助成の助成対象者は延べ1,879名、助成総額は18億6,940万円となります。

2. 助成金額

1件につき100万円。毎年、自然科学系40件、人文・社会科学系10件、計50件（5,000万円）を助成します。

3. 助成金の使途

当該研究の遂行に必要な経費である限りにおいて、その使途に制限はありません。

4. 伯楽制度

本研究助成のユニークな制度として「伯楽制度」があります。これは中国の故事「千里馬常有而伯楽不常有（千里の馬は常に有れども、伯楽は常に有らず）」にちなみ、当該年度の助成対象者に選ばれた方の中で、抜きん出て優秀かつ有望な研究を行うと選考委員会が認めた方に対して2年連続して助成する制度です（2024年度の適用者はありませんでした）。

5. 盛和スカラーズソサエティ（3S: Seiwa Scholars Society）

本研究助成を受けた対象者相互の交流と親睦を深めることによる研究のさらなる発展を願い、1997年に発足しました。専門分野が細分化され、学問全体が見えづらい近年、異分野間の横断的かつ学際的な思考の重要性がますます求められています。3Sの会員は、自然科学から人文・社会科学にいたる幅広い分野の研究者で構成され、研究発表、交流会、メールマガジンなどを通じて、専門分野を越えた交流をはかっています。



2024 年度稲盛研究助成 選考委員会名簿

2024 年度稲盛研究助成対象者は、下記の委員長および委員によりご選考いただきました。

委員長 村 上 正 紀 立命館大学 特別研究フェロー

[自然科学系]

委員 審 良 静 男 大阪大学 ワクチン開発拠点
先端モダリティ・DDS研究センター 拠点長
〃 巖 佐 庸 九州大学 名誉教授
〃 上 田 正 仁 東京大学 大学院理学系研究科 教授
〃 影 山 龍一郎 理化学研究所 脳神経科学研究センター センター長
〃 片 岡 一 則 (公財)川崎市産業振興財団 副理事長
東京大学 名誉教授
〃 君 塚 信 夫 九州大学 大学院工学研究院 主幹教授
〃 経 塚 淳 子 東北大学 大学院生命科学研究科 教授
〃 佐々木 節 東京大学 国際高等研究所
カブリ数物連携宇宙研究機構 副機構長
〃 坪 井 俊 武蔵野大学 工学部 特任教授
〃 西 田 栄 介 理化学研究所 生命機能科学研究センター センター長
〃 野 田 進 京都大学 大学院工学研究科 教授
〃 安 浦 寛 人 国立情報学研究所 副所長
〃 柳 田 素 子 京都大学 大学院医学研究科 教授
〃 山 田 容 子 京都大学 化学研究所 教授

[人文・社会科学系]

委員 井野瀬 久美恵 甲南大学 文学部 教授
〃 玄 田 有 史 東京大学 社会科学研究所 教授
〃 河 野 哲 也 立教大学 文学部 教授
〃 山 室 信 一 京都大学 名誉教授
〃 渡 辺 千 原 立命館大学 法学部 教授

※肩書きは 2024 年 3 月 1 日現在



2024 年度研究助成対象者ならびに研究題目

【自然科学系】

対象者	研究題目
アベ ヨシアキ 安部 佳亮 筑波大学 医学医療系 講師	リンパ腫内マイナーポピュレーションT細胞の機能と臨床的意義の解析
イツクシマ レイ 巖島 怜 九州工業大学 大学院工学研究院 准教授	河川地形の遷急点に着目した伏在活断層の探査手法の構築
ウラノバ ダナ ウラノバ ダナ 高知大学 教育研究部総合科学系 講師	「微生物の会話」を分子レベルで解読し天然化合物探索に役立てる
オオノ ヒロヒサ 大野 博久 京都大学 iPS細胞研究所 特定拠点助教	精密な遺伝子発現制御を可能とする人工RNAの開発
オカムラ ヒデノリ 岡村 秀紀 東北大学 多元物質科学研究所 助教	細胞内光分子構築法の創成と薬理活性制御への応用
オザワ タカアキ 小澤 貴明 大阪大学 蛋白質研究所 助教	最先端多領域光ドーパミン計測と光神経操作による恐怖学習制御メカニズムの解明
コジマ シュン 小島 駿 東京大学 生産技術研究所 特任助教	可視光通信システムにおける物理層秘密鍵生成法の開発
コバヤシ キョウゴ 小林 暁吾 九州大学 大学院理学研究院 助教	場所に関する記憶の識別に関与する細胞基盤の解明
サカマキ ジュンイチ 坂巻 純一 順天堂大学 医学部 准教授	オルガネラ膜脂質のユビキチン化の普遍性、分子基盤、生物学的意義の解析
シバタ シュン 柴田 峻 東北大学 大学院医学系研究科 助教	ヒト胚着床オルガノイドモデルを用いた妊娠免疫母子間ネットワーク機構の深層解明
シモモト ヒロアキ 下元 浩晃 愛媛大学 大学院理工学研究科 准教授	立体規則性が制御された易分解性アクリル樹脂の開発
シュウ ウェイウェイ 周 偉偉 東北大学 大学院工学研究科 准教授	レーザー粉末床溶融結合法による多機能セラミックスの創製



対象者	研究題目
シライシ タカヒサ 白石 貴久 熊本大学 先進マグネシウム国際研究センター 准教授	特異な周期配列構造の自己形成メカニズムの解明: チタン合金の開発
スズキ ヤスヒト 鈴木 祥仁 大阪公立大学 大学院工学研究科 准教授	重合に誘起されるガラス化近傍での不均一性、非晶構造変化、化学反応速度の関係性
スリアジャヤ アデ イルマ スリアジャヤ アデ イルマ 九州大学 大学院数理学研究院 准教授	リーマンゼータ関数と素数の間隔の分布
セキ タカカズ 関 貴一 弘前大学 大学院理工学研究科 助教	界面振動分光法による、界面分子描像の三次元超解像顕微鏡の開発
タカイ アツロウ 高井 淳朗 物質・材料研究機構 高分子・バイオ材料研究センター 主任研究員	近赤外光電変換を実現する π 共役分子のワンステップ合成・高密度集積化
タカエ キョウヘイ 高江 恭平 東京大学 生産技術研究所 特任講師	スキルミオン凝縮相におけるダイナミクスの普遍構造
タカハシ リョウ 高橋 遼 お茶の水女子大学 基幹研究院 助教	過度ダイナミクスによるスピン流体発電の制御
タグチ ジュンペイ 田口 純平 東京大学 医科学研究所 特任助教	遺伝子全長ヒト化マウスの汎用的作出を実現する基盤技術の開発
チャダニ ユウヘイ 茶谷 悠平 岡山大学 学術研究院環境生命自然科学学域 准教授	アミノ酸配列に秘匿された新規遺伝情報を自在制御する手法の開発
ツカモト タカマサ 塚本 孝政 東京大学 生産技術研究所 講師	クラスター物質を基盤とする新物質化学領域の開拓
ツネマツ トモミ 常松 友美 北海道大学 大学院理学研究院 講師	神経細胞に依存しない睡眠覚醒制御機構の解明
テラカワ ツヨシ 寺川 剛 京都大学 大学院理学研究科 助教	DNAカーテン1分子蛍光イメージングで探る転写因子YY1のDNAループ形成分子機構



対象者	研究題目
トミダ ケンゴ 富田 賢吾 東北大学 大学院理学研究科 准教授	大規模並列計算に対応した放射磁気流体シミュレーションコードAthena++の開発
ニシグチ アキヒロ 西口 昭広 物質・材料研究機構 高分子・バイオ材料研究センター 主幹研究員	液-液相分離制御によるin vivo血管化技術の開発
ノサキ ショウヘイ 野崎 翔平 筑波大学 生命環境系 助教	アルギニンリッチなDNA結合タンパク質の分子機能および生物学的意義の解明
ノモト マサノリ 野本 真順 富山大学 学術研究部医学系 准教授	睡眠中の脳の情報処理ルールを解読する
ハヤシ カツマ 林 克磨 京都大学 大学院医学研究科 特定助教	感染の場の異質性を加味した感染症流行動態モデルの構築
ハヤシ ヒロノブ 林 宏暢 物質・材料研究機構 マテリアル基盤研究センター 主任研究員	水溶性有機多孔質ナノシートの開発と機能
ヒライケ ユウタ 平池 勇雄 東京大学 保健・健康推進本部 助教	褐色脂肪細胞の鍵因子NFIAによる文脈特異的な転写制御機構の解明
フジイ シュン 藤井 瞬 慶應義塾大学 理工学部 助教	原子層二次元物質で機能化した超高Q値微小光共振器による新奇ナノ光物性の開拓
マエダ タクヤ 前田 拓也 東京大学 大学院工学系研究科 講師	新奇ヘテロ接合を利用した窒化物半導体高電子移動度トランジスタに関する研究
マルヤマ ケンタ 丸山 健太 愛知医科大学 医学部 教授	大腸癌の予防を目指した基礎的研究
ミナミ サトシ 南 聡 大阪大学 大学院医学系研究科 特任助教（常勤）	1細胞RNAseq 解析を用いたAKI to CKD の病態解明と治療応用
ミナミタニ エミ 南谷 英美 大阪大学 産業科学研究所 教授	トポロジカルデータ解析を応用した酸化物ガラスの構造-物性相関の解明



対象者	研究題目
ヤマグチ エイジ 山口 英士 岐阜薬科大学 薬学部 講師	励起アニオン種の戦略的活用に基づく新しい可視光 レドックス触媒化学
ヤマミチ マサト 山道 真人 情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 准教授	迅速な進化と共存動態：理論と実証
ワカタケ タカノリ 若竹 崇雅 奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 助教	寄生植物と宿主植物の間で道管液が転流するしくみの 理解と制御
ワタナベ ヒロコ 渡辺 寛子 東北大学 ニュートリノ科学研究センター 助教	海洋底地球ニュートリノ観測の実現を目指した光検出器 モジュールの開発
小計 40件	

（【人文・社会科学系】対象者は次頁）



【人文・社会科学系】

対象者	研究題目
アダチ トモオ 安達 知郎 京都教育大学 大学院連合教職実践研究科 准教授	教師による倫理綱領作成を支援するプログラムの開発、 および効果測定
オオヤマ タカトシ 大山 貴稔 九州工業大学 教養教育院 准教授	グローバル・サウスから見た「平和国家」の変質：メコン 地域の開発援助関係者への聞き取りを通して
オカモト ナオコ 岡本 尚子 人間文化研究機構 人間文化研究創発センター 研究員	『千一夜物語』仏語訳者J.-C.マルドリユス研究－地中海地 域における文学空間の実相解明に向けて
オザキ ミツキ 尾崎 充希 宮崎大学 教育学部 講師	肢体不自由特別支援学校の主体的・対話的で深い学びの 実現に向けたCO-OPを基盤とした授業づくり
オマタラポー ヒトミ 小俣ラポー 日登美 京都大学 白眉センター 特任准教授	奇蹟という焦点——聖遺物をめぐる「事実」構築過程の 歴史
カイデ ユウスケ 開出 雄介 北海道大学 大学院公共政策学連携研究部 准教授	気候変動に対処するための国際法の構造分析——約束モ デルと公益モデル——
カワサキ ケンタロウ 川崎 賢太郎 東京大学 大学院農学生命科学研究科 准教授	農業発展と獣害に関する統計分析：ブータンを対象として
コウ セイセイ 向 静静 立命館大学 立命館アジア・日本研究機構 助教	20世紀前半における日本漢方医学書の中国への影響： 東アジアの思想的交流の解明
タシロ アイ 田代 藍 東京大学 未来ビジョン研究センター 特任講師	変容する新コモンズ管理論の構築：田んぼダムの意思決定 に関する実証研究
モチヅキ ミキ 望月 美希 静岡大学 情報学部 助教	福島第一原発事故における「通い復興」と生活再建の現状
	小計 10件
	計 50件

※肩書きは 2024 年 3 月 8 日現在